



角笛会会報

発行所

日本大学生物資源科学部
獣医学科角笛会〒252-8510
藤沢市亀井野1866
0466-84-3636

角笛会会報巻頭文 角笛会会長 中川秀樹

世界的規模で高病原性鳥インフルエンザの人への流行が懸念され、我が国でも自治体それぞれが対応策として抗ウイルス薬（タミフル）の備蓄を始めています。近年はBSEに始まりSARS、野兎病など人と動物の共通感染症が注目され、獣医師の責務は益々重大になっております。

日本大学ではこうした社会の期待に応え教育と研究をより一層発展させるため、平成17年4月には動物医科学研究センターが開設され、併せて社会的ニーズとなっている高度医療を提供し、教育研究の拠点となる動物病院も医療施設の拡大と最新の医療機器を設置した新病院に生まれ変わりました。

時代の期待に応えるための最新の獣医学教育を授け、優れた獣医師を社会へ送るためには教育環境整備と併せて最も大切な教育者の充実であります。幸いにして、本年8月に酒井健夫教授が生物資源科学部長に就任されましたことは教育改革に大なる裁量を発揮されることと期待するところであります。

2007年の獣医学科創立100周年記念事業も記念誌作成、名簿作成、式典準備の三委員会を設置して進めることが総会で決定され準備を進めております。

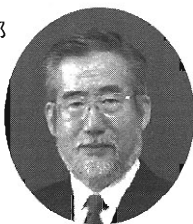
去る10月15日には角笛会主催「酒井健夫教授の学部長就任を祝う集い」を高輪プリンスホテルで開催いたしましたところ、全国より130名を超える会員と多数の来賓の方々に御参集いた

き盛会裏に開催できましたことを御報告申し上げます。この祝宴の事前には全国支部長事務局長会議を開催いたしまして、獣医業後継者優入試制度の説明、記念事業の計画報告、大学の近況報告などを行い、理解を頂戴致しました。

第4回日本大学医療系同窓・校友学術講演会(医学、歯学、薬学、獣医学)が9月17日に日本大学会館に於いて開催され、獣医学科からは丸山総一教授が「ペットと楽しく暮らすため」にと題して、人と動物の共通感染症を正しく理解するために講演されました。平成18年度は獣医学科が担当で開催することが決定しております。是非、意義ある講演会へ多くの方々が参加されますよう御案内申し上げます。各界で活躍されている同窓生で組織される角笛会はその親睦親交の拠り所として情報伝達、教育現場との連携支援に向けた活動を今後も心がけてまいりたいと思います。100周年に向け、今後とも会員各位の御支援御鞭撻を心より御願ひ申し上げます。

■ 学部長就任にあたって ■

日本大学生物資源科学部
学部長 酒井健夫



私は去る8月24日から生物資源科学部の学部長を勤めることになり、その重責を強く感じているところでございます。学部長就任にあたり、角笛会の皆様にご挨拶させていただきます。

日本大学生物資源科学部は、植物、動物、微生物などの全ての生物とさらに生物によって創出される二次的資源の「生産・利用の科学」、生物生産を可能にする「生命科学」、それらを取り巻く「環境科学」、ならびにそれらの課題と密接に関わる「人間の活動」をキーワードとして、学部11学科、大学院2研究科、短期大学部2学科において教育と研究を総合的に展開しています。

特に獣医学科は「生命科学」分野の主軸をなす学科として位置づけております。

本学では、高度化した獣医療ならびに獣医学教育の国際化に対応すべく、本年4月に動物病院（通称ANMEC）の増改築を行い、延べ面積は3,665平方メートルに拡大するとともに、MRIやCT、CR（コンピュータドラジオグラフィ）などの大型診断機器を最新鋭のものに交換し、レベルアップを図りました。また、学生のより実践的な臨床獣医師の育成を目指して、診療科目ごとのローテーション教育をカリキュラムに取り入れるとともに、地域獣医療ならびに獣医師の生涯教育への貢献をめざし、診療技術や知識を高水準に保つ各種研修やセミナーなどを積極的に開催しています。

また、国際的な見地から各種感染症の解明と対策を確立するために、伝染病学、感染制御学、疫学並びに微生物学や免疫学、分子生物学などの専門領域で構成され、先端的研究を行う「動物医科学研究センター」を設置いたしました。本

研究センターは、文部科学省によって選定された学術フロンティア共同研究プロジェクト「人獣共通感染症のサーベイランスと制御」に基づく最新の研究・分析機器を備えた研究施設で、学外、他大学や海外の研究者とも連携した体制の下で研究を進めています。

このように本学は、国際的な視野に立ち、常に教育と研究環境の改善、整備充実を図り、社会のニーズに的確に応えて、学生から選ばれる大学であり続けたいと考えております。また、獣医学教育は大学だけで完成するものではありません。卒前教育を分担する大学と卒業教育を分担する獣医界が有機的に連携して、初めて獣医学教育が完成するものと考えています。今後とも中川会長をはじめ角笛会の皆様から、本学の獣医学教育により一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、角笛会の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げ、私の挨拶といたします。

■ ごあいさつ ■

獣医学科主任 金山喜一
(昭和54年3月卒)



中川秀樹会長をはじめ、角笛会の諸兄姉の皆様には平素から本学科における獣医学教育ならびに研究・診療等にご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。不肖、金山が本年4月から渡部敏教授の後を受け、学科主任を仰せつかりました。浅学非才の身ではございますが、母校の飛躍と発展を願う気持ちは皆様と同じです。微力ながら、その職責を全うする所存でございますので、ご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

私が申し上げるまでもなく、獣医学は動物医療と公衆衛生への寄与が社会から付託されている使命の2本柱です。輝かしい歴史と伝統を誇る当学科は、先輩諸氏のご努力・ご尽力によ

て、それぞれの時代の趨勢に応じた十分な知識と技術を備えた有為な獣医師を養成して参りました。獣医臨床、衛生行政等の分野はもとより、近年では野生動物、稀少動物の医療・保護も獣医学に要請されている領域で、この側面から「環境」も獣医学が取り扱う範疇になってきています。さらには介助動物等の医療を守備範囲としていますので、ヒトの社会生活と福祉をも担っていることは言をまちません。

日本の獣医学教育の整備・充実を図り欧米並みの国際水準に到達するため、長年にわたり大学基準協会や全国大学獣医学関係代表者協議会、また全国農学部長会議等において検討がなされ、その結果は公表されてきました。これらの改善目標に向けて当学部においても動物病院の規模拡大、臨床教育システムや教育環境の整備、教員数の確保などが図られてきたところです。さらに最近では、日本獣医師会・日本学術会議・全国大学獣医学関係代表者協議会の三者からな

る外部評価機関の設置と外部評価の導入、私立獣医科大学協議会による相互評価、ならびに評価結果に基づく改善状況の報告などが求められております。

このように、さらなる獣医学教育の充実・強化が各大学に課せられていますが、幸い、当学部の学部長は獣医学科の酒井健夫教授ですので、今まで以上に学部と強固な連携を保ち、目標の達成に邁進したいと念願しています。さらに、角笛会の皆様のご支援をいただき、「学部」・「学科」・「校友会」の三者が一体になり、強力な相乗効果が期待できるものと確信しています。

二十一世紀に羽ばたく獣医師の養成に向けて、獣医学科の全教員が一丸となって獣医学教育の充実に取り組む所存ですので角笛会の皆様のご支援、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。最後になりましたが、角笛会の益々の隆盛と皆様のご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

平成17年度角笛会総会を開催

事務局長 丸山総一

平成17年6月4日(土)、午後15時20分から日本大学湘南校舎第4講義室で、平成17年度の角笛会総会が開催されました。今回も、昨年度に続き、午前中は第43回日本大学獣医学会、午後からは角笛会という合同開催のスタイルでした。

角笛会の幹事会、総会では先ず事務局より提出された平成16年度の事業報告、会計報告が、鳥海弘監事の監査報告の後、承認されました。続いて平成17年度事業計画案、同予算案が審議され、順当に承認、成立致しました。平成16年度は各地方支部会、同僚校友会等に総計



14回、大学教員、角笛会執行部を派遣致しました。長年の懸案であった会則の改正についても、些細な修正の指摘を受けた後、承認されました。平成19年は、本獣医学科が発足して100年になります。その100周年記念事業案が事務局から提出され、満場一致で承認されました。また、角笛会功労者として、前静岡県支部長の浅川豊先生(昭22)、前大分県支部長の岡田統生先生(昭26)、茨城県支部

長の苦瀬義雄先生(昭23)が承認され、総会終了後に記念品目録とともに表彰状が授与されました。今回は、ANMEC(日本大学動物病院)支援基金授与者の該当者はありませんでした。

新支部長の就任に伴う幹事候補として青木孝之氏(栃木、昭27)、首藤健一氏(宮城、昭

45)、佐藤利夫氏(静岡、昭22)、クラス幹事として清水輝男氏(平16)、小林由紀氏(平16)がそれぞれ新たに承認されました。

午後4時30分からNUホール3階にて催された懇親会には、茂澤生物資源科学部校友会長をはじめ同僚校友会の来賓の方々、獣医学科教員を含め約70名に参会いただきました。中川会長の挨拶に始まり、前々会長の田中延吉先生の乾杯の後、和やかな雰囲気の中に、懇親会は進行し、会場のあちらこちらで談笑の輪ができていました。



総会資料

平成16年度一般会計収支決算報告書

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

一般収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 支部会費	1,600,000	1,356,000	244,000	1,356人×1,000円
II. 新入会員費	1,200,000	892,000	308,000	校友会本部
III. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
IV. 雑費	2,208	21,006	△ 18,798	支部会お礼・利息等
V. 前年度繰り越し額	4,097,792	4,097,792	0	H15年度
合計	7,100,000	6,566,798	533,202	

一般支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 経常費	3,450,000	1,463,731	1,986,269	
1. 会合費	600,000	71,722	528,278	会議等
2. 交際費	600,000	179,925	420,075	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	900,000	531,000	369,000	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	500,000	166,691	333,309	通信料・郵送料
5. 事務局運営費	850,000	514,393	335,607	給与、事務用品等
II. 会報費	1,400,000	1,251,390	148,610	会報19号・20号
III. 名簿管理費	300,000	0	300,000	業務委託 名簿費等
IV. 卒業生記念品費	500,000	87,150	412,850	平成16年度卒業生他
V. 学会補助費	200,000	200,000	0	第42回日大獣医学会
VI. 組織拡充費	400,000	0	400,000	
VII. 特別会計Ⅰ	300,000	600,000	△ 300,000	名簿会計*1
VIII. 特別会計Ⅱ	300,000	600,000	△ 300,000	将来事業基金*2
IX. 予備費	250,000	155,500	94,500	表彰者記念品代、懇親会赤字分
合計	7,100,000	4,357,771	2,742,229	三菱銀行

*1 特別会計Ⅰへ *2 特別会計Ⅱへ

平成16年度 総支出合計 4,357,771 円
平成16年度 次期繰越収支差異 2,209,027 円
計 6,566,798 円

支出の部内訳

V. 卒業生記念品費内訳 平成16年度卒業生 男子77名 女子77名 合計154名分

保管状況 三菱銀行(年会費) 767,472 円 郵便局(年会費) 1,208,940 円
手持ち現金 232,615 円 合計 2,209,027 円

平成16年度特別会計Ⅰ 収支決算報告書【名簿会計】

平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで

収入の部				(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	600,000	△ 300,000	(平成15・16年度分)
II. 雑費	10,025	6	10,019	利息
III. 前年度繰越額	3,899,975	3,899,975	0	
収入合計	4,210,000	4,499,981	△ 289,981	

支出の部				(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 名簿作成費	3,910,000	0	3,910,000	
II. 雑費	300,000	33,421	266,579	公社債解約手数料他
支出合計	4,210,000	33,421	4,176,579	

平成16年度 次期繰越収支差異【名簿会計】4,466,560 円

保管状況 三菱銀行(特別会計Ⅰ) 合計 4,466,560 円

平成16年度特別会計Ⅱ 収支決算報告書【支援基金・将来事業資金】

平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで

収入の部				(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	600,000	△ 300,000	(平成15・16年度分)
II. 預金利子	10,393	871	9,522	利息等
III. 前年度繰越額	6,289,607	6,289,607	0	
収入合計	6,600,000	6,890,478	△ 290,478	

支出の部				(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 研究助成費(ANMEC支援)	500,000	0	500,000	
II. 外国専門医招聘料	150,000	0	150,000	
III. 予備費	950,000	0	950,000	
IV. 将来事業基金	5,000,000	0	5,000,000	
支出合計	6,600,000	0	6,600,000	

平成16年度 次期繰越収支差異【支援基金・将来事業資金】 6,890,478 円

保管状況 三菱銀行(特別会計Ⅱ) 合計 6,890,478 円

平成16年度懇親会費 収支決算報告書

収入の部				(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
懇親会参加費	400,000	325,000	75,000	5,000円/人

支出の部				(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
懇親会費	400,000	403,500	△ 3,500	

平成16年度 収支差異【懇親会費】 -78,500 円

赤字分は一般会計で補充

総会資料

平成17年度一般会計 予算(案)

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

収入の部(一般) (単位:円)

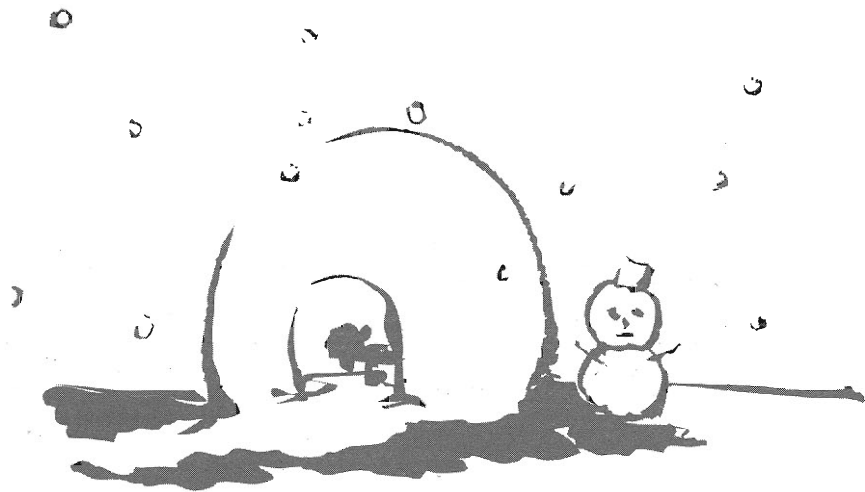
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 支部会員費	1,600,000	1,600,000	0	1600名×@1,000
II. 新入会員費	1,200,000	1,200,000	0	校友会本部
III. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
IV. 雑費	973	2,208	△ 1,235	預金利子等
V. 前期繰越額	2,209,027	4,097,792	△ 1,888,765	
収入合計	5,210,000	7,100,000	△ 1,890,000	

平成17年度予算 収入の部合計 5,210,000 円

支出の部(一般) (単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 経常費	2,960,000	3,450,000	△ 490,000	
1. 会合費	500,000	600,000	△ 100,000	会議等
2. 交際費	500,000	600,000	△ 100,000	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	900,000	900,000	0	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	300,000	500,000	△ 200,000	通信
5. 事務局運営費	760,000	850,000	△ 90,000	給与、ソフト等
II. 会報費	700,000	1,400,000	△ 700,000	会報21号
III. 名簿管理費	100,000	300,000	△ 200,000	業務委託等
IV. 卒業生記念品費	100,000	500,000	△ 400,000	平成16年度卒業生
V. 学会補助費	200,000	200,000	0	第43回日大獣医学会
VI. 補助費	100,000	0	100,000	日本大学医療系同窓・校友連絡会
VII. 組織拡充費	200,000	400,000	△ 200,000	情報ネット化調査費
VIII. 特別会計Ⅰ	300,000	300,000	0	名簿作成繰入金
IX. 特別会計Ⅱ	300,000	300,000	0	将来事業繰入金
X. 予備費	250,000	250,000	0	
支出合計	5,210,000	7,100,000	△ 1,890,000	

平成17年度予算 支出の部合計 5,210,000 円



平成17年度特別会計Ⅰ 予算【名簿会計】(案)

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 雑費	3,440	10,025	△ 6,585	預金利子等
III. 繰越額	4,466,560	3,899,975	566,585	
収入予算合計	4,770,000	4,210,000	560,000	

支出の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 名簿作成積立金	4,770,000	4,210,000	560,000	
支出予算合計	4,770,000	4,210,000	560,000	

平成17年度特別会計Ⅱ 予算【支援基金・将来事業資金】(案)

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決算額	差 異	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 雑費	9,522	10,393	△ 871	預金利子等
III. 繰越額	6,890,478	6,289,607	600,871	
収入予算合計	7,200,000	6,600,000	600,000	

支出の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決算額	差 異	備 考
I. 研究助成費	500,000	500,000	0	ANMEC支援基金
II. 外国専門医招聘料	150,000	150,000	0	ANMEC支援基金
III. 特別事業費	0	950,000	△ 950,000	
IV. 将来事業基金	6,550,000	5,000,000	1,550,000	
支出合計	7,200,000	6,600,000	600,000	

平成17年度懇親会費 予算(案)

収入の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決算額	差 異	備 考
懇親会参加費	400,000	400,000	0	5,000円/人

支出の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決算額	差 異	備 考
懇親会費	400,000	400,000	0	

ANMEC関連記事

ANMECの増改築が完了し動物医療の新拠点として生まれ変わりました。延床面積は3,700m²となり、診察系ゾーンでは診察室数が12となった他、新たに感染系の診察ゾーンも新設されています。また、最新鋭のMRI、CTも設置され、社会の求める高度な動物医療に対応できるように設備面での充実も計られています。

平成16年度 ANMECセミナー (第105回～第109回)

第105回 (H16.11.22開催) 参加者171名(外部12名・内部159名)

教育講演: 「炎症性腸疾患」

Dr. Rebecca L. Remillard

獣医師 博士 米国獣医栄養学専門医

エンジェル・メモリアル動物病院

マサチューセッツ州 ボストン

第106回 (H16.12.6開催) 参加者168名(外部9名・内部159名)

教育講演: 「関節軟骨病変に対する治療」

Dr. James L. Cook

獣医師 博士 米国外科専門医

ミズーリ大学 整形外科

第107回 (H17.1.17開催) 参加者110名(外部4名・内部106名)

教育講演: 「動物の遺伝子疾患とゲノム解析

Animal Comparative genomics」

Dr. Kyu-Woan Cho

韓国 慶尚大学 獣医内科学教室

第108回 (H17.2.21開催) 参加者161名(外部14名・内部147名)

教育講演: 第22回 臓器別疾患シリーズ: 「リンパ腫」

コーディネーター 高橋 朋子

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. リンパ組織の解剖学 | 木村順平 (獣医解剖学) |
| 2. リンパ組織の免疫機能 | 大谷 功 (獣医生理学) |
| 3. イヌとネコのリンパ腫 - 病理 | 渋谷 久 (獣医病理学) |
| 4. イヌとネコのリンパ腫 - 臨床 | 高橋朋子 (総合臨床獣医学) |

第109回 (H17.3.14開催) 参加者96名(外部4名・内部92名)

教育講演: 第23回 臓器別疾患シリーズ: 「歯科」

コーディネーター 大場 茂夫

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 獣医歯科診療の実践 | 幅田 功 ANMEC非常勤講師 |
| 2. FORLについて | 大場茂夫 (獣医内科学) |

平成17年度 ANMECセミナー (第110回～117回)

第110回 (H17.4.18開催) 参加者165名(外部14名・内部151名)

教育講演: 「止血凝固異常症の診断と治療 ～ANMECの症例から～」

亘 敏広 (総合臨床獣医学)

第111回 (H17.5.23開催) 参加者143名(外部7名・内部143名)

教育講演: 「ウサギの子宮疾患」

斎藤久美子

斎藤動物病院 院長

第112回 (H17.6.30開催) 参加者214名(外部17名・内部197名)

教育講演: 「小動物の臨床栄養学 ～犬の骨関節炎の包括的管理～」

Dr. D. Marcellin-Little

米国獣医外科専門医, ヨーロッパ獣医外科専門医

ノースカロライナ州立大学 准教授

整形外科

第113回 (H17.7.30開催) 参加者83名(外部4名・内部79名)

教育講演: 「脳・脊髄だけじゃないMR画像診断」

山谷吉樹 (総合臨床獣医学)

第114回 (H17.9.26開催) 参加者179名(外部14名・内部165名)

教育講演: 「歩行による四肢の跛行診断」

コーディネーター 枝村 一弥

永岡勝好

みなとよこはま動物病院 院長

ANMEC非常勤講師

第115回 (H17.10.24開催) 参加者121名(外部9名・内部112名)

教育講演: 「小動物麻酔に関する最新情報」

Dr. S. Green

獣医師 博士 麻酔専門医

ワシントン州立大学 助教授

第116回 (H17.11.7開催) 参加者161名(外部11名・内部150名)

教育講演: 「獣医心臓病学のトピックス」

Dr. Alan. W. Spier

獣医師 博士 内科専門医

元ミズーリ州立大学

第117回 (H17.12.12開催) 参加者106名(外部5名・内部101名)

教育講演: 「獣医学の進歩・発展とインフォームド・コンセント」

白井規雄

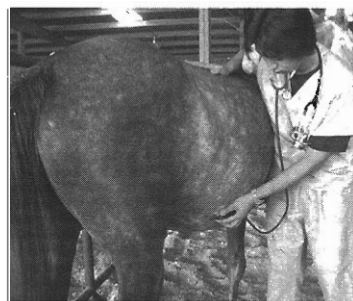
日本小動物獣医師会

松ノ木動物病院 院長

海外研修 その1

ワシントン州立大学夏季獣医臨床研修

本年度も7月24日～8月7日の2週間にわたり夏季獣医臨床研修が開催されました。本年度で14回目となる研修では津曲茂久教授(獣医臨床繁殖学)を団長として、渋谷久助教授、加納壘講師、坂井学助手および日暮美紀副手が引率し、小動物コース26名、馬医学コース15名の学生が参加しました。世界的に優れた米国の獣医学を体験、学習し、それぞれが修了証を手は無事帰国しました。また恒例の野外バーベキューや修了式パーティーでは現地教育スタッフとの活発な異文化交流もあり、充実した2週間を過ごしました。

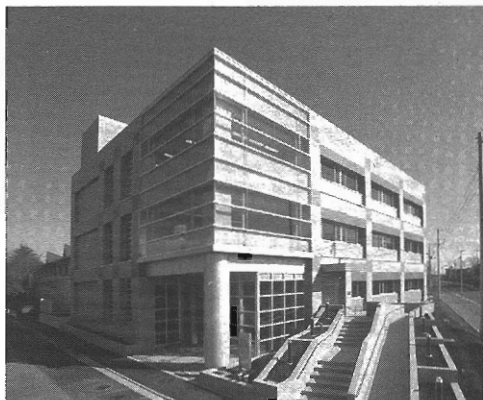


獣医学科の近況

動物医科学研究センター竣工

動物医科学研究センターは、文部科学省によって選定された学術フロンティア共同研究プロジェクト「人獣共通感染症のサーベイランスと制御」に基づき、研究の進展とその成果を社会へ還元することを目的として建設された先端的研究施設です。動物医科学研究センターでは毎月1回セミナーが開催されていますので、ご参加をお待ちしています。

(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/%7Eenuverc/index.htm>)



■ 退 職

井上裕基先生（魚病学）が退職されました。

■ 人事・昇格

酒井健夫先生（獣医衛生学）が日本大学生物資源科学部長に就任されました。また、丸山総一先生（獣医公衆衛生学）が教授に、佐藤雪太先生（実験動物学）が専任講師に、それぞれ昇格されました。鈴木和彦先生が獣医伝染病学研究室に異動されました。

■ 新 任

北川勝人先生（総合臨床獣医学）、岡林 堅先生（獣医生化学）、大田一予さん（学務事務）が着任されました。



北川勝人専任講師



岡林 堅助手



大田一予副手

■ 学年担任（平成17年度）

- 1 年次：泉對 博教授（獣医伝染病学）、根本洋明助教授（数学）、伊藤琢也講師（獣医衛生学）
2 年次：佐藤常男教授（獣医病理学）、大谷 功講師（獣医生理学）
3 年次：津曲茂久教授（獣医臨床繁殖学）、加納 壘講師（獣医臨床病理学）
4 年次：湯川眞嘉教授（実験動物学）、大場茂夫講師（獣医内科学）
5 年次：浅野隆司教授（獣医薬理学）、渋谷久助教授（獣医病理学）
6 年次：金山喜一教授（獣医生理学）、壁谷英則講師（獣医公衆衛生学）



獣医師国家試験

第 56 回獣医師国家試験の結果が平成 17 年 3 月 17 日に発表されました。日本大学獣医学科からは新卒者 149 人が受験し、136 人が合格しました。合格率は 91.3% で新卒合格者の全国平均 90.2% を上回りました。



表彰、受賞

獣医公衆衛生学研究室教授の丸山総一先生が「猫ひっかき病の疫学に関する研究」により日本獣医学会賞（第97号）を受賞されました。

卒業生の岩坪澄美子さんが優等賞、成島理恵さん、竹下文瀬さんが学部長賞、小川美由紀さんが日本獣医師会会長賞をそれぞれ受賞されました。角笛会会長賞は、綿邊文朗さん、鈴木利奈さんに授与されました。



博士（獣医学）の学位取得者

今年度、大学院博士課程を修了し博士（獣医学）を取得された方は、岡林 堅氏（Studies on the capsule - associated genes of *Cryptococcus neoformans*）、小熊圭祐氏（The effects of cytokines on apoptosis on canine neutrophils）、長島奈歩氏（Studies on pathogenesis and therapy of myelodysplastic syndrome in cats）、丸山治彦氏（悪性腫瘍罹患犬における播種性血管内凝固症候群の発現機序に関する研究）、三浦輝久氏（犬のリンパ球形質細胞性十二指腸炎の病態に関する研究）です。

獣医学科入試・入学状況

現在、本学では種々の方法で入学者の選抜が行われています。平成 17 年度獣医学科のそれぞれの受験状況は以下の表に示すとおりです。なお、平成 18 年度より日本大学校友子女推薦（公募制）が新設されました。詳細は学部 web site の入試案内のページ（<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/content/nyushiannai.html>）をご覧ください。

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
一般推薦（公募制）	学部全体で 55 名	61 (43)	14 (11)	4.4 倍
一般推薦（公募制、関連産業後継者）	学部全体で 22 名	25 (13)	11 (6)	2.3 倍
本校試験（第1期）	40 名	1,965 (849)	115 (52)	17.1 倍
本校試験（第2期）	20 名	1,049 (500)	33 (18)	31.8 倍

本年度獣医学科に入学した1年生は144名（うち女子は66名）でした。

()は女子

求人のお願ひ

女子学生の増加に伴い、小動物臨床の勤務医を希望する者が増えています。会員からの求人申し込みは学部就職指導課ならびに6年次担任（金山喜一教授、壁谷英則専任講師）までご連絡ください。



トピックス

「酒井健夫教授の学部長就任を祝う集い」が開催されました

丸山総一(昭和57年学部卒)

本年8月24日、酒井健夫先生は、小堀進先生(故人)以来、実に34年ぶりに獣医学科から日本大学生物資源科学部長に就任されました。そこで、角笛会をあげて、是非ともお祝いしようということになり、「酒井健夫教授の学部長就任を祝う集い」を平成17年10月15日(土)、東京高輪プリンスホテル「松の間」において開催いたしました。

当日は、全国津々浦々から130名以上の校友ならびに他学科同窓会々長が集まり、酒井先生の学部長就任を祝福いたしました。式は岩田穎三 角笛会副会長の司会進行のもと、中川秀樹 角笛会会長の発起人代表挨拶、ご来賓の茂澤 泉 生物資源科学部校友会長の挨拶、金山喜一 獣医学科主任の挨拶に続き佐久間勇次 日本大学名誉教授からご祝辞をいただきました。角笛会から酒井先生に花束・記念品を贈呈した後、学部長就任のご挨拶をいただき



ました。ご挨拶の中で、酒井先生は、日本大学は常に国際的な視野に立ち、教育と研究環境の改善、整備充実を図り、社会のニーズに的確に答えて、学生から選ばれる大学でなければならないとおっしゃっていたのが印象的でした。宮田萬司 角笛会相談役の乾杯のご発声とともに、祝賀会は和やかな雰囲気の中に進行了。酒井先生と校友の談笑の時間は瞬く間に過ぎ、長尾社七 角笛会副会長の閉会の辞とともに6時30分に終了いたしました。

日本大学生物資源科学部は学部 11 学科、大学院2研究科、短期大学部2学科で構成さ

れており、学生総数約7,500名、専任教職員400名以上が藤沢キャンパスで生活しています。このような大所帯を学部長として取りまとめ、また少子化が進む中で、さらに発展させていくご苦労は並々ならぬものがあるかと思えます。そのためには、獣医学科を中心として、また獣医学科校友会としても全力を挙げて学部長をサポート・応援していかなければなりません。是非、全国角笛会支部の先生方のご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

最後に、本会にご出席いただきました角笛会の諸先生方に厚くお礼申し上げます。



公開国際シンポジウム「人獣共通感染症の現状とその対策—今考える、人と動物の共生を目指して—」開催される

丸山総一(昭和57年学部卒)

平成17年11月11日(金)、日本大学生物資源科学部大講堂において、公開国際シンポジウム「人獣共通感染症の現状とその対策—今考える、人と動物の共生を目指して—」が開催されました。このシンポジウムは文部科学省によって選定された学術フロンティア共同研究プロジェクト「人獣共通感染症のサーベイランスと制御」の一環として、開催されました。本プロジェクトでは、得られた研究データ、情報

ならびに技術をフィールドに還元し、人獣共通感染症や動物感染症の診断、予防、治療技術のボトムアップと社会における感染症予防の普及・啓蒙に役立てることも重要な使命となっています。

本シンポジウムでは、アメリカのカリフォルニア大学からBruno B. Chomel教授、フランスのアルフォール獣医大学からHenri-Jean Boulouis教授、ブラジルのサンパウロ州立大学からFumio H. Ito教授をお招きするとともに研究プロジェクトに参画されている本学の教員により、各種人獣共通感染症に関する基礎的な内容から最新の情報まで分かりやすく発表して頂きました。海外の先生方は英語による講演でしたが、同時通訳も付いていたため、

一般の人達にも非常に理解しやすかったと思います。また、最後のセッションでは、本研究プロジェクトの若手の先生方による、感染症と免疫に関する最新の研究発表もあり、活発な質疑・応答がありました。当日は、444名(学内357名、学外87名)もの参加者があり、多くの人達が人獣共通感染症に高い関心を持っていることが伺えました。

犬や猫などの伴侶動物(コンパニオンアニマル)と外来動物(エキゾチックアニマル)がヒトと同じ生活環境で暮らし、その距離がきわめて近くなっている現代社会では、人獣共通感染症を正しく理解することが、より安全で豊かな社会の発展とヒトと動物の共生を目指す上で重要であることを改めて認識しました。

学術フロンティア「人獣共通感染症のサーベイランスと制御」 公開国際シンポジウム

人獣共通感染症の現状とその対策—今考える、人と動物の共生を目指して—

日時：平成17年11月11日(金) 10:00—18:35

会場：日本大学生物資源科学部 大講堂

10:00 公開シンポジウムの開催にあたって
研究組織代表 酒井 健夫 (日本大学)

10:05 セッション1：ダニ媒介性の人獣共通感染症

座長：湯川 真嘉 (日本大学)

10:05—11:05 1)ヨーロッパにおけるダニ媒介性人獣共通感染症

Henri-Jean Boulouis

(Alfort's School of Veterinary Medicine, France)

11:05—11:45 2)わが国におけるダニ媒介性人獣共通感染症

野上 貞雄 (日本大学)

11:45—13:00 —昼 食—

13:00 セッション2：野生動物由来人獣共通感染症の現状と対策

座長：丸山 総一 (日本大学)

13:00—14:00 3)新興人獣共通感染症：野生動物から

エキゾチックペットへ

Bruno B. Chomel (University of California, Davis, USA)

14:00—14:40 4)わが国の野生動物と人獣共通感染症

村田 浩一 (日本大学)

14:40—15:00 —コーヒーブレイク—

15:00 セッション3：世界の狂犬病の現状と対策

座長：泉對 博 (日本大学)

15:00—16:00 5)南米における狂犬病の現状と対策

Fumio H. Ito (University of Sao Paulo, Brazil)

16:00—16:40 6)わが国およびアジア諸国における狂犬病の現状と対策

酒井 健夫 (日本大学)

16:50 セッション4：若手研究者による研究公開

—感染と免疫の新たな知見

座長：中西 照幸 (日本大学)

16:50—17:10 7) Bartonella henselae 実験感染ネコにおける

サイトカイン産生プロファイル

壁谷 英則 (日本大学)

17:10—17:30 8) 犬および猫の Toll-like receptor (TLR) の

分子生物学的解析

加納 豊 (日本大学)

17:30—17:50 9) 牛乳低分子分画が有する好中球機能制御作用

伊藤 琢也 (日本大学)

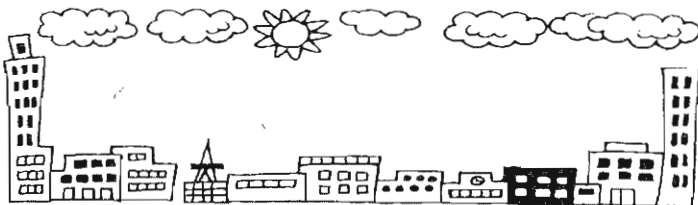
17:50—18:10 10) 魚類好中球の活性酸素産生—アユ好中球の特徴

森友 忠昭 (日本大学)

18:10—18:30 11) 魚類寄生体のエスケープ機構

間野 伸宏 (日本大学)

18:30 閉会の辞 中西 照幸 (日本大学)



第 4 回日本大学医療系同窓・校友学術講演会に参加して 丸山総一(昭和 57 年学部卒)

平成 17 年 9 月 17 日(土)、日本大学会館大講堂において第 4 回日本大学医療系同窓・校友学術講演会が開催されました。私は今回演者として参加いたしましたので、その概要についてご報告いたします。プログラムは以下のとおりです。

開会の辞

新井謙寿(当番幹事 松戸歯学部同窓会長の挨拶)

来賓挨拶

小島勝衛(日本大学総長)

第一講演

バイオサイエンス応用による生命科学的歯科医療
我孫子宜光(日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座教授)

第二講演

心臓血管外科手術の最新の進歩
天野 篤(順天堂大学医学部心臓血管外科教授)

第三講演

ペットと楽しく暮らすために
一人と動物の共通感染症を正しく理解するー
丸山総一(日本大学生物資源科学部獣医学科獣医公衆衛生学研究室教授)

第四講演

閉塞型睡眠時無呼吸症候群への歯科的対応
祇園白信仁(日本大学松戸歯学部歯科補綴学第一講座教授)

第五講演

法的情報源医薬品添付文書のはなし
小清水敏晶(順天堂大学医学部附属浦安病院・薬剤科科長)

開会の辞

中川秀樹(日本大学生物資源科学部獣医学科校友会角笛会長)
懇親会

この会は、医学、歯学、薬学および獣医学の各学部、学科の医療系の同窓が集い、情報交換と交流の場として活用されています。私も第三回と第四回に参加してみて、医学、薬学、歯学に関する最新の知識や情報を多く得ることができましたし、現代の医療の進歩に驚かされました。また、数ある私学の中でも医学、薬学、歯学、獣医学がそろっている大学は日本大学を置いて他にありません。多くの医療系校友が各方面で活躍され、また、最先端の研究をされているのを目の当たりにすると、日本大学の底力を感じずにはられません。獣医学領域の中だけで仕事をしているととなく視野が狭くなりがちです。是非角笛会の会員の皆様もこの会に参加して視野と知識を広げてみてはいかがでしょうか？

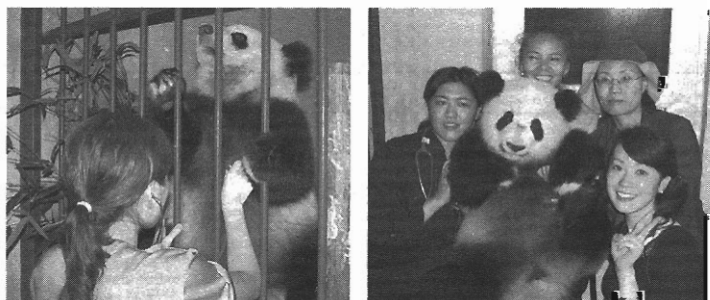
第五回は角笛会が当番幹事で、2006 年 9 月 30 日(土)、日本大学会館で開催されます。多くの校友の参加とご協力を期待しております。

海外研修 その2



中国 成都大熊猫繁育研究基地で第一回パンダ研修実施

本年度より中国のパンダ保護の拠点である成都大熊猫(パンダ)繁育研究基地(政府機関)で総合臨床獣医学実習の一環としてパンダ研修がスタートしました。初回である本年は、かねてより同基地でのパンダの保護に協力してきた渡部敏教授(獣医生化学)を団長として、8名の5年次学生が7月24日から18日間、絶滅の危機に瀕しているパンダの臨床、飼育、保護等の研修を受けてまいりました。



角笛会関連記事

角笛会 群馬県支部総会を開催

角笛会群馬県支部

事務局長 井上ますお(昭和44卒・県保健福祉部)

平成 16 年 12 月 5 日(日)ホテルメトロポリタン高崎において、角笛会副会長の長尾壮七先生、同会事務局長の丸山総一先生をお招きして、平成 16 年度支部総会が行われました。(出席者は 32 名)

第一部の総会は、田村幸生支部長(45 卒・開業)、飯塚照夫副支部長(52 卒・開業)のもと、和気あいあいの雰囲気の中、形通りに終了いたしました。

第二部の支部研修会では、両先生並びに高橋正宣前々事務局長(36 卒・県農政政OB)からご講演を頂きました。

長尾先生には「家畜防疫」と「獣医学史」と題してのご講演を頂きました。

演題に沿ったり離れたり、聞いている人を引きつける流暢な長尾節を久し振りにお聞きしました。

先生から、ご自身は東京獣医最後の卒業生であり、今が引き時であるとお話もありましたが、まだまだ、ご活躍して欲しいと感じたのは、私一人ではないと思います。

丸山先生からは「ズーノーシスのトピックスと学内の近況」と題してのご講演を頂きました。昨今、話題の中心である高病原性鳥インフルエンザのご講演を頂き、また同時に、PC プロジェクターによる学内の紹介をして頂きました。

母校の変わりように驚くと同時に、時の過ぎ去る早さを感じ、感慨ひとしおでありました。

また、高橋前々事務局長からは「ベトナムでの活動報告」と題してのご講演を頂きました。氏が個人的に始めたベトナムでの活動とその苦労話など。そして現在では、地域の人のみならず国から頼られる存在となっていると言う素晴らしい講演をして頂きました。

第三部の懇親会では、両先生を囲んで学生時代に戻った人、この場に及んで更に知識・学識を貪欲に求めようとする人など・・・様々でありました。

和やかな雰囲気の中全員が近況報告などを行い、限られた時間もあっという間に過ぎ去ってしまいました。

最後は、恒例となった日大節で盛り上げ、同窓生の親交と団結を誓って締めくくりとなりました。

唯一残念だったことは最後の盛り上がりの時、先生方お二人のお顔が見えなかったことです。



※ 写真は、支部総会風景と全員で記念撮影したものです。

校友だより

Malo le soifua!

池田和彦(平成11年卒)

みなさんはサモアという国をご存知ですか？南太平洋に浮かぶ小さな島国、私はそこで青年海外協力隊として2年間、小動物臨床医として活動しました。私が所属していたのはサモア在住のニュージーランド人やオーストラリア人が中心となって設立したNGOで、犬と猫の診療を行っていました。私の他にも外国人ボランティア獣医師が数名いました。主な活動内容は、犬と猫の避妊・去勢手術、一般診療、飼育指導などです。特にサモアでは野犬の問題が深刻化していたので、避妊・去勢には力を入れて活動を行っていました。この組織は設立されて10年程ですが以前と比べて野犬の数が減少したという内容も聞かれたので、今後の活動に期待したいと思っています。

活動は往診専門で、それぞれ獣医師が個々に往診します。診療も手術も屋外で行うことがほとんどで、検査器械もなにもなく、問診と自分の判断で診断を下し治療をします。幸い、薬などはサモア国立病院やニュージーランドから入手できるので、ある程度治療はできます。ところが、サモアのほとんどの一般家庭で犬が飼われているのですが、愛玩動物としてではなく番犬としての目的で飼われている家庭が多く、病気の動物に対して（他の理由からということも多くありますが）安易に安楽死を求める飼い主が非常に多いということに驚きました。その一方で、飼い犬をととても大事にしている飼い主に出会うこともありました。

海外で活動することによって、それぞれの国の文化の違いで動物に対する考え方にも違いがあるということもわかり、非常に有意義な活動期間であったと思います。

現在は動物病院で勤務しています。獣医学の進歩も目覚ましいものがあり、検査機器や治療方法などもさまざまな進化していますが、動物たちが望むであろう最良の治療を提供できるような獣医師を目指したいと思います。

ちなみにMalo le soifua というのはサモア語で丁寧な挨拶の言葉です。



平成9年卒業生の同窓会を開催しました。

衣笠俊之(平成9年卒)

平成17年8月3日(水)、東京駅からほど近いホテルのバンケットルームにて、平成9年卒業生の同窓会を卒業後初めて開催しました。

今まで、「同窓会をやってほしい」「同窓会を開催しよう」など、計画倒れとなって実際に開催できずに9年目に至っていました。そんな中で、初めて同窓会を行うことが出来ました。

当日は同窓生40名近くの出席があり、なかには直前まで予定が立たなかった人や東京で

の開催にもかかわらず、遠くは北海道、九州からの出席もありました。

卒業して9年が過ぎましたが、学生時代に一気に戻ってしまう人、近況を語らう人など、再会を喜び、出席者一同楽しい時間を過ごすことができました。たまには、学生の頃に帰って騒ぐのも楽しいことです。また、同窓生の繋がりの大切さを実感しました。

今回は初めての開催でもあり本学の恩師の出席をお願いしませんでした。今後は母校との繋がりも大切にし、同窓生の親睦を深めていきたいと考えていますので、皆様の御指導と御支援をお願い致します。

※写真は、出席者全員で記念撮影したものです。



《平成9年卒業生へ》

今回の同窓会は、春先に、夏場の平日が集まりやすいのではないだろうか和幹事で決めてしまいましたが、今後は同窓生も開業準備、結婚生活、出産などいろいろな状況があることを考慮し、一人でも多くの出席がかなうよう、当日に行ったアンケートなどを参考に開催していかなければと考えています。

また、今回何らか都合等で参加頂けなかった方は、次回は是非とも仲間を誘ってご参加ください。なお、幹事からの連絡が行き届かなかった方、連絡先が変わった方など、幹事までご連絡いただきたいと思います。ホームページへの登録も合わせてお願いいたします。

【連絡先(学年幹事)】草野:kusa-kan@jb3.so-net.ne.jp、衣笠:kinu@pop12.odn.ne.jp

【HP】<http://groups.yahoo.co.jp/group/nichidai-vet-H9-reunion/>

学会関連記事

第43回日本大学獣医学会が下記の通り開催されました。今回は昨年同様、角笛会総会との合同開催となりました。

学会長:佐藤常男 担当学会長:羽原弘史
事務局:渋谷久 日時:平成17年6月4日(土)
場所:日本大学生物資源科学部湘南校舎

特別講演・企画

「新動物病院の紹介と施設見学」

田中茂男先生 (日大動物病院院長、獣医外科学研究室)
ポスター発表 14演題

第44回日本大学獣医学会開催案内

日時 平成18年6月3日(土)
場所 日本大学生物資源科学部
神奈川県藤沢市亀井野1866(小田急線 六会日大前駅下車)
参加費 学会参加費 1,000円(学生無料)
特別講演 山村穂積先生 (Pet Clinic アニホス)
問合せ 事務局 〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
日本大学生物資源科学部獣医病理学研究室(渋谷 久)
TEL&FAX 0466-84-3631
E-mail shibuyah@brs.nihon-u.ac.jp

編集後記

世界各地で人獣共通感染症のニュースが途絶えることなく流れ、社会での獣医師の果たすべき責務は日に日に大きくなっているようです。多くの校友の先生方が各所でご活躍のことと思いますが、大学においても、様々な分野での研究・教育を充実させるべく、動物医科学研究センター竣工、ANMECの増改築の完了など、平成17年度は大きく前進する1年となりました。今後も角笛会をとおし、大学と社会で活躍する校友の先生方が一致団結して社会に貢献することが理想ではないでしょうか？大学でのセミナー以外にも各支部において会合が開催されていることと思います。疎遠になっていた先生方も足をお運びになってはいかがでしょうか？

角笛会会報への掲載記事などがございましたら、事務局までご一報頂ければと思います。(2005年12月 椎橋 孝、平成9年卒)